

## 想定される論点

### 議題2 「ワクチン・新規モダリティ・治療薬等研究開発事業（基金）」

- ・ 事業目的や事業内容に照らして適切な効果発現経路が設定されるとともに、適切な効果検証の仕組みが確保されているか。また、感染症有事における有効性を事後的に評価できるよう、あらかじめ有事の場合の効果測定の見え方も整理しておくべきではないか。
- ・ 令和7年度基金シートでの外部有識者の所見も踏まえ、事業全体の整理が適切であるか見直すべきではないか。
- ・ 事業目的や事業規模に照らして有効性、効率性の高い事業となっているか。

(参考) 各府省庁においては、国民からの提案も踏まえ、租税特別措置・補助金・基金の自己点検を実施することとされている。

【国民からのご提案を踏まえた「点検の視点」(補助金・基金)】

(令和8年4月10日(金) 租税特別措置・補助金見直しに関する関係閣僚等及び副大臣会議 資料2-1)

- ① 効果検証を強化し、成果に基づく制度運用へ転換すべき
- ② 政策目的と手段を精査し、公平で目的に即した政策設計・運用を徹底すべき
- ③ 事業構造や執行面の改善により、透明性・効率性を高め、不正・中抜きを防止すべき
- ④ 補助金依存体質を改め、自治体・事業者の自立や成長につながる仕組みに改めるべき
- ⑤ 申請・報告等の事務負担を軽減し、現場が本来業務に専念できるようにすべき

※ とりわけ基金について踏まえる視点

- ・ 一定期間ごとに成果指標(KPI)等を検証し、資金配分に反映すべき
- ・ 重複、休眠等の状態にある基金を整理・統廃合し、不要な資金を国庫返納すべき
- ・ 基金を「見える化」し、透明性を確保すべき
- ・ 公費負担に応じ、事業成果を国へ還元させるべき
- ・ 基金活用に付随する機会費用を軽減すべき
- ・ 基金設置法人等の運営、執行を適正化すべき